豊根村小中学校情報機器整備事業に係る各種計画

令和7年3月

豊根村

（別添１）

【豊根村】

端末整備・更新計画

	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度
①児童生徒数	53	43	47	43	40
②予備機を含む 整備上限台数		49			
③整備台数 （予備機除く）		43			
④ ③のうち 基金事業によるもの		43			
⑤ 累積更新率		100			
⑥ 予備機整備台数		6			
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの		6			
⑧ 予備機整備率		15			

※①～⑧は未到来年度等にあっては推定値を記入する

（端末の整備・更新計画の考え方）

令和2年度に整備した端末の更新を行う。

令和7年度末までに新端末を用意し、令和8年度から運用を開始する。

（更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について）

〇対象台数：78台

〇処分方法

・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用　：0台

・小型家電リサイクル法の認定事業者に再使用・再資源化を委託　：0台

・資源有効利用促進法の製造事業者に再使用・再資源化を委託　：0台

・その他（学校で予備機として再利用 ）　：78台

〇端末のデータの消去方法 ※いずれかに〇を付ける。

⊙自治体の職員が行う

・処分事業者へ委託する

〇スケジュール（予定）

令和　年　月 処分事業者 選定

令和8年4月 新規購入端末の使用開始

令和8年4月 使用済端末の事業者への引き渡し

〇その他特記事項

（「⑤ 累積更新率」が令和10年度までに100％に達しない場合は、その理由）

（別添２）

【豊根村】

ネットワーク整備計画

1　必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（%）

豊根村の学校数：小学校1校　中学校1校　合計　2校
必要なネットワーク速度が確保できている学校：2校（100%）

2　必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（1）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和６年度調査済

（2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

令和６年度改善済

（3）ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

現時点で、特に課題はありません。

（別添 3）

【豊根村】
校務 DX 計画

1　目的

・次世代校務システムを導入することで校務 DX を推進し、教育現場の業務負担を軽減する。

・クラウド環境を活用し、効率的な情報管理・運用を実現する。

2　推進方針

（1）FAX・押印の原則廃止のために

・電子決裁とオンライン文書共有を標準化する。

（2）校務支援システムの手入力削減のために

・学籍・生徒指導情報を校務支援システムで管理統合する。

（3）クラウド環境の積極活用のために
・文書管理
・決裁・スケジュール管理のデジタル化を推進する。

（4）さらなる業務効率化のために

・AI 支援の活用や近隣教育機関とのシステム統合

3　校務 DX の現状と課題、改善策

（1）　教員と保護者間の連絡のデジタル化

①現状と課題
現在、校務支援ソフト「ツムギノ」を導入し、主として保護者との連絡に活用している。欠席連絡やお知らせの配信には一定の成果を上げているが、面談や家庭訪問等の日程調整機能については、集計処理の利便性が低く十分に活用されていない。また、通知表、要録、学校日誌、出席簿等の公簿については、郡内で統一的に使用されている書式との整合性に課題があり、積極的には使用されていない。学校説明会や保護者面談のオンライン化については、設備の整備は行われている。

②改善策
面談や行事の予約管理をスムーズにするため、オンライン予約システムの活用を検討する。また、保護者に対して、オンライン面談や、学校説明会、保護者会のオンライン参加について、需要調査を定期的に実施し、ニーズの把握に努める。

（2）教職員と児童生徒間の連絡のデジタル化

①現状と課題
Google Workspace for Education を導入し、Gmail や Classroom、Forms を活用して教職員と生徒間の連絡を行っている。生徒アンケートについては Forms を利用し効率化が進んでいるが、学習課題については従来のワークブックを中心としており、クラウドを活用した取り組みは限定的である。また、地域の教員団体が作成する評価テストは紙ベースで実施されており、CBT（Computer Based Testing）の活用が進んでいない。今年度より、家庭学習の充実を目的に、オンライン学習教材のアカウントを全生徒に付与したが、その活用については現在試行している最中であり、教科の授業と十分に結びついているとはいいがたい。

②改善策
学習課題のデジタル化を進めるため、オンライン学習教材と教科の授業を連携させ、より効果的な学習支援を実施する。また、評価の多様化を図るため、CBT の試行的導入を進め、データ分析のフィードバックをもとに、授業の改善と学習方法の向上に役立てる。

（３）学校内の連絡のデジタル化

①現状と課題
教職員への調査やアンケートは Google アプリを活用しているが、職員会議の資料や文書管理は従来の紙ベースのままであり、押印や回覧が残っている。メールも紙に印刷して回覧する運用が続いており、二度手間になっている。また、校務支援システムと名簿情報の連携が不十分で、教員が手作業で名簿を入力する必要がある。

②改善策
業務の効率化を進めるため、電子メールやクラウド上での文書管理を標準化する。また、FAX でのやり取りを原則廃止する。さらに、校務支援システムと学籍情報を自動連携させ、手入力作業の削減を図る。また、電子決裁システムを導入し、文書の回覧・決裁をデジタル化することで、校内の業務フローを大幅に改善する。

４　今後の取り組み

（１）FAX・押印の原則廃止

・文書の電子化・クラウド共有の促進

・電子決裁の導入により、業務フローを改善

（２）校務支援システムの名簿情報の手入力削減

・学籍情報との自動連携を推進し、教職員の業務負担を軽減

（３）クラウド環境の積極活用

・文書管理・決裁・スケジュール管理のクラウド化

・出席情報・行事予定などをオンラインダッシュボードで一元管理

（４）次世代校務システムの導入検討

・AI 支援の活用による業務の効率化

・保育園・小学校・中学校・教育委員会とのシステム統合を視野に入れた運用の検討

５　まとめ

本計画では、教員と保護者間、教職員と児童生徒間、学校内の業務の 3 つの領域で DX を推進し、業務効率化と教育の質の向上を図る。特に、FAX・押印の廃止、名簿情報の自動連携、クラウド環境の活用、次世代校務システムの検討という 4 つの視点を中心に改善を進めることで、教育現場の負担軽減と業務の合理化を目指す。

（別添 4）

【豊根村】
1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1　1 人 1 台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

豊根村の公立学校では、小規模校の特性を活かしつつ、ICT を効果的に活用し、児童生徒の学びを深化させることを目的とする。豊根小学校・豊根中学校の計画を踏まえ、以下の目標を設定する。

（1）個別最適な学びの実現

・児童生徒が自分のペースで学習できる環境を整え、基礎学力の定着を図る。
・デジタル教科書やドリル教材を活用し、反復学習を支援する。
・CBT（Computer Based Testing）の活用により、学習状況を適切に評価し、フィードバックを行う。

（2）協働的な学びの推進

・児童生徒が ICT を活用して意見を共有し、多様な考えに触れる機会を増やす。
・ロイロノートやプレゼンテーションソフトを活用し、発表や議論を活性化させる。
・デジタル会議やチャットツールを活用し、他校や外部機関との交流を促進する。

（3）地域資源を活用した探究的な学びの強化

・小規模校の強みを生かし、地域の人材や素材を活用した学習活動を ICT と組み合わせて実施する。
・生徒のアイデアを形にするため、3D プリンタやレーザー加工機、ドローン等の活用を進める。
・SNS やウェブサイトを活用した情報発信に取り組む。

2　GIGA スクール構想第 1 期の総括と課題

（1）成功した取り組み

・小学校・中学校ともに、タブレット端末を活用した授業の実施が定着。
・電子黒板と Apple TV を活用した授業改善。
・オンライン学習ソフトの導入による個別学習の促進。
・中学校ではオンライン授業や SNS を活用した文化祭の実施。

（2）課題の整理

・端末管理に関する教員の負担

・年度更新作業や端末設定に関する負担が大きい。

・保守管理を業者委託するにはコスト面の課題がある。

（3）電子黒板の更新の必要性

・現在の設備が導入から約 10 年経過し、最新のものと比べて機能が劣る。

（4）ネットワーク環境とクラウドの整合性

・校内サーバーの管理とクラウドストレージの統合が求められる。

（5）生徒の心のケアと ICT の活用

・スクールカウンセラーとのオンライン面談の実施。
・端末のダッシュボード機能を活用し、生徒自身が学習状況や心身の状態を把握できる環境整備。

３　１人１台端末の利活用方策（GIGA スクール第２期の方向性）

（１）個別最適な学びの実現

・児童生徒が自分のペースで学習し、その様子を教師が見取り、声掛けを行うことができるようクラウド環境を整える。

・デジタル教科書やドリル教材を活用し、反復学習を支援できるよう利用方法について検討する。

（２）協働的な学びの推進

・児童生徒がクラウド環境を活用して級友の意見を参照し、多様な考えに触れる機会を増やす。

・ロイロノートやプレゼンテーションソフトを活用し、発表や議論を活性化させる。

・デジタル会議やチャットツールを活用し、他校や外部機関との交流を促進する。

（３）ICT 環境の更新と充実

・電子黒板をクラウド接続可能な最新型に更新し、利便性を向上。
・校務支援システムと端末とを連携して学習計画や成績管理を効率化。

（４）ICT を活用した学びの深化

・CBT を活用し、学習評価をデジタル化。
・学校図書の機能を拡張し、電子書籍やオーディオブックを導入。
・プログラミングやセンサー技術を活用した探究的な学習活動を推進。
・生徒の情報発信力を高めるため、SNS やウェブサイトでの発信を促進。

・特別支援学級での活用促進

（５）ICT を活用した生徒の心のケア

・スクールカウンセラーとのオンライン相談窓口の開設。

・端末のダッシュボード機能を活用し、生徒自身が学習・健康管理を行える仕組みを整備。

４　まとめ

豊根村の小中学校では、１人１台端末を活用し、個別最適な学び・協働的な学び・地域資源を活かした学びを推進している。GIGA スクール構想第１期での成功事例を活かしつつ、第２期では端末管理の効率化、ICT 環境の更新、学びの深化、生徒の心のケアなどの課題を解決することを目指す。特に、小規模校の利点を生かした ICT 教育を推進し、児童生徒が主体的に学び、成長できる環境を整えることが重要である。